

クルリンと ほしぞらさんぽ 7月号



もう7月 七夕?!

7月そして夏休み、ほしぞらさんぽにはもってこい、と思うでしょ。でも日没が遅くて午後8時を過ぎないと空が暗くなりませんよ。カに刺されないよう備えをして、夏の星空を楽しみましょう。

天の川と七夕さん

7月7日は七夕たなばた。七夕と言えばおり姫とひこ星の七夕伝説と天の川。雨の夜が多い梅雨っゆのさい中に天の川が見えるものでしょうか。おり姫はこと座のベガ、ひこ星はわし座のアルタイルです。次ページの星図を見ると、7月の初めには天の川もベガもアルタイルも、まだ東の空で、見にくいですよ。へんですね〜。

わけを教えましょう。150年以上前、江戸時代には別の暦こよみが使われていました。昔の暦の7月7日は現在の暦の8月だったので

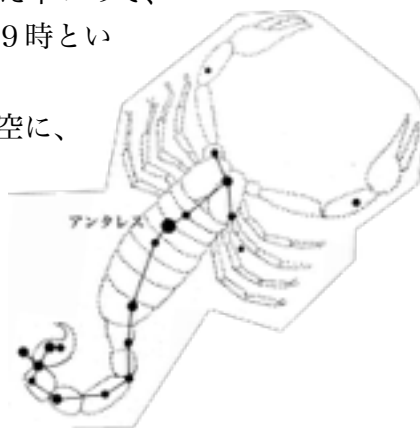
(今年は8月22日が江戸時代の暦の7月7日にあたります)。だから「七夕」は古い暦でないと意味がないのです。

8月に入れば天の川が南の空の正面に見えるし、ベガもアルタイルもやはり南の正面の高い空に見えています。100年前の空はとても暗かったので、天の川はどこにいても明るくはっきりと夜空を横切って見えていたことでしょう。よく見えるから七夕の伝説が生まれたのかもしれないね。現代は街の明かりが夜空に反映して、本当に暗い空はもうどこにもありませんが、それでも伊勢原から車で1時間ぐらい離れた箱根の山の上などでは、夏の天の川を見ることはできます。

7月の星座

7月の星空をながめてみましょう。夏の8時では夜空が暗くなるのにまだ早いので、ほしぞらさんぽの開始は9時ということにします。

真南のあまり高くない空に、さそり座の頭の3つの星が見えているでしょう。その3つの星の東側(左側)に明るい星

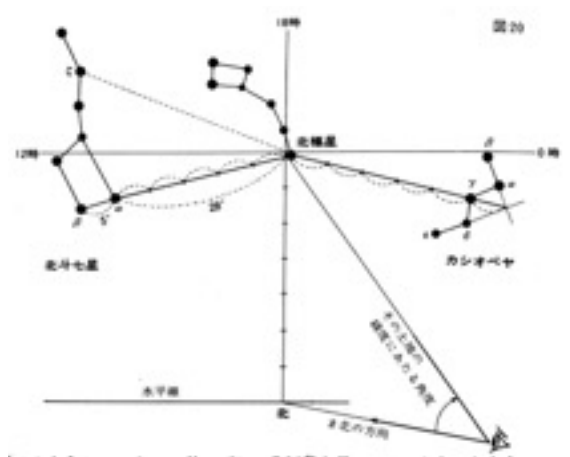


が一つ、さそり座のアンタレスです。肉眼でも赤っぽいけれど、双眼鏡で見ると明らかに赤く見えているでしょう。アンタレスは地球からの距離およそ550光年、見た目の明るさはちょうど1等星。

次は七夕の星を探しましょう。こと座のベガ(おりひめ星)とわし座のアルタイル(ひこ星)ですね。7月のこの時刻では、さそり座のアンタレスに向かって左手側のかなり高い空にベガが見えます。ベガは明るいのですぐに見つかるでしょう。ベガの反対側(西側)の高いところにうしかい座のアルクトゥルスが輝いています。ベガのすぐ下にダブルダブルスターと言われる二重星が、目のいい人なら肉眼で、さらに双眼鏡があれば確実に見えるはずですよ。

はくちょう座のデネブは、1等星の中では暗い星だし、東のやや低い空なのでちょっと見つけにくいけれど、よく晴れていれば図のように夏の大三角として見つけられると思いますよ。挑戦してみましょう。

次は北の空で北極星を見つけましょう。2等星ですから伊勢原の空でもちゃんと見つかります。下の図を使って探してみてくださいね。何回か繰り返し探



していると、すぐに見つかるようになります。北極星が見つけれられるようになったらお友達に自慢しちゃおう。

7月30日 みずがめ座流星群

7月30日から31日にかけて、みずがめ座流星群が見られるはずです。この時期には4つも流星群が重なっているの、晴れていればたくさん流れるかもしれません。でもあいにく月が明るいので明るい流星しか見えないかもしれません。でも夜半過ぎには月が沈んで条件が良くなります。流星群を見るときはくれぐれも安全な場所で！

7月20日 水星が見えるかも？

日没後のわずかな時間ですが、西の低い空、地平線から3°上に見えるはずですが、西の地平線まで見える場所でないともむずかしいでしょう。

日記に書いておこう

ほしぞらさんぽができたなら、ぜひ日記に書いておきましょう。何を見つけたか3つは書きましょうね。そのときにどんなことを感じたか、考えたか、あるいは浮かんた疑問なども、やはり3つ以上書いておきましょう。2つでは足りませんよ。

7月の月の満ち欠け 8月は？

7月にほしぞらさんぽができそうなのは、何日から何日ごろまでだと考えられますか。下の月の満ち欠けの図を見ながら考えて、お家の人と意見を戦わせましょう。

もう一つ、7月の満ち欠けの図から、8月にほしぞらさんぽができそうなのはいつか考えてみましょう。旅行の計画があるようなら、それとからめてほしぞらさんぽを計画するのもいいですね。

